

支援教育グループ研究会

グループ員：門脇 陽一 (伊丹特別支援学校) 廣江 千夏 (稲野小学校)
本田 麻 (緑丘小学校) 関 明美 (笹原小学校)
桑原 友香 (瑞穂小学校) 小林 純子 (瑞穂小学校)
山田 洋一 (瑞穂小学校) 徳本 大典 (瑞穂小学校)
宮地 千春 (鈴原小学校) 吉久 奈保美 (鈴原小学校)
岩本 とよ子 (鴻池小学校) 江戸 明日香 (西中学校)
宿南 由紀 (せつよう幼稚園)

担当指導主事：上野 みづほ

キーワード：特別支援教育 学習障害 応用行動分析学

1 研究テーマ

「応用行動分析を用いた特別支援教育の技法について」

2 研究内容

- (1) 子どもの行動上の問題へのアセスメントと分析方法、指導方法の立案
子どもの問題行動について、仮想事例を用いてワークショップを行った。ワークショップでは、前年度に引き続き機能分析という手法を用いて、学校現場における行動の記録の取り方や全体指導の中でできる個別の支援などについて研修した。
- (2) 学習障害の子どもへの指導と支援の仕方
 - ① 読字障害・・・五十音の1音と1文字の対応の理解が難しい子どもへの指導方法や文法の理解が難しい子どもへの指導方法などについて、教材を用いながら研修した。
 - ② 算数障害・・・事例を通して、算数障害の子どもへのアセスメント方法や指導方法について研修した。数の入力と処理、出力に分けて分析し、どの段階で困難さがあるのかを検討した。
 - ③ 書字障害・・・複雑な図形を模写したり、数分間記憶してから覚えていた図形を再現したりするワークショップを行い、漢字や図形を覚えにくい子どもの画像認識について話し合った。

3 成果と課題

- (1) 成果
 - ① 子どもの行動上の問題へのアセスメントと分析方法、指導方法の立案では、暴言や他害行動、不登校などの問題行動のある子ども一人ひとりの実態に応じた支援について考えることができた。
 - ② 学習障害の子どもへの指導と支援の仕方では、教材やワークショップを中心に具体的な支援方法を学ぶことができた。参加者からは「学校での指導場面で子どもがどこでつまづいているのか、より深く理解できるようになった。」との感想があるなど、子どものどの面に苦手さがあるのか、より細かく分析する手法を学ぶことができた。
- (2) 課題
研究会で学んだアセスメントの視点や、具体的な指導方法について日々の実践に活かし、支援をしていくことが重要である。そのためには、このグループで学習した指導技法を取り入れ、実践の中で子どもが変わった様子を記録し、その記録を用いて校内で積極的に紹介するなど学んだことを周りの同僚たちに広げていくことが今後の課題である。